

授業科目名 (英文名)	経営学特講(地域イノベーション論)(経営学部・専門科目) (Regional Inno- vation System)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	畑 正夫	所属	地域創造機構
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>(講義目的) 社会の課題が複雑・多様化する中で持続可能な地域社会(コミュニティから国を超える 幅広い地域を含む) を構築することが求められている。こうした要請に応え、企業 、政府、非営利組織等が「経済」「環境」「社会」の諸課題に対処するさまざまなイ ノベーションの創出に取り組んでいる。多様なイノベーションの概念と、こうした動 きの背景にある社会経済理論を俯瞰しながら、これからの社会経済のあり方を考える 。</p> <p>(到達目標) イノベーションがもたらす効用とそれを支える社会システムの重要性を理解すると ともに、企業、政府、非営利組織に求められている「経済」「環境」「社会」を重視し た行動を考える基本的な視点を身につける。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義は概ね次の6部で構成する。</p> <p>第1部：地域イノベーションとは何か(第1講～第5講) 「地域イノベーション論がめざすもの」(イントロダクション) を明らかにして、 イノベーションに寄せられる関心、イノベーションとは何かを普及過程や企業家精神 、破壊的イノベーション、ベースオブエコノミックピラミッドなどをキーワードに、 について、基本的な議論を紹介する。</p> <p>第2部：イノベーションを生み、支えるシステム(第6講～第11講) 企業組織の中で起こる個別のイノベーションから多様な組織がオープンな関係性 の中で生み出すイノベーションについて考える。また、国家イノベーションシステム、 トリプルヘリックス、クラスター、ビジネスエコシステムなどをキーワードに、そう したイノベーションを支える環境について考える。</p> <p>第3部：多様な主体と生み出す公共的価値(第12講～第16講) 複雑に絡み合う社会経済課題に企業を含めた様々な主体に適切な対応が求められて いる。企業の社会貢献活動の変遷を見ながら、世界共通の課題である持続可能な開発 目標(SDGs) への貢献も含めて、コラボレーション、ステークホルダーをキーワード にイノベーションが目指すべき公共的価値の実現について考える。</p> <p>第4部：多様な主体と生み出す公共的価値(第17講～第21講) ソーシャルイノベーションと求められる背景について考えるとともに、ヨーロッパ ・英国における新しい社会的経済の主体を概観し、それらの取組み主体が台頭する背 景にある社会的経済的状況と理論について考える。特に、ソーシャルエンタープライ ズの理論的な枠組みについて紹介する。</p> <p>第5部：多様な社会的経済の主体(第22講～第26講) 市民社会の活動主体を、協働組合、ワーカーズコープ、ソーシャルファーム、ソー シアルビジネス、フェアトレード等のソーシャルエンタープライズの活動を中心に紹 介する。また、コミュニティをベースにした金融、不動産の仕組みについて考える。</p> <p>第6部：ソーシャルイノベーションを支える仕組み(第27講～第30講) 社会的な課題解決に取り組む主体を支える仕組みについて、ソーシャルファイナ ンス、エコシステムをキーワードに、その多様性と社会システムの変革の必要性につ いて考える。また、イノベーションの新たな展開を展望し、地域におけるイノベー ションが持つ意義について総括する。</p>		

テキスト	各回の講義で詳細な資料を提供する。
参考文献	講義の中で提示する。
成績評価の基準・方法	レポート点60%、講義内で行う小レポート点40%で評価する。
履修上の注意・履修要件	イノベーションをキーワードに幅広い内容を議論するため、各回の講義末に提示する次回講義のキーワードや参考文献を示すので予習を行うこと。また、講義内容を受けて具体的なイノベーションの取組みを新聞報道や参考文献でフォローする等、学修を深めるための復習を行うこと。なお、講義内容の連続性と相互関係性が高いので、講義回数・時間の3分の2以上の出席が必要。遅刻は厳禁。詳細は第1回の講義で説明する。
実践的教育	兵庫県庁のビジョン局長・政策室長として、地域づくりや地域再生に取り組んだ実践的経験を生かし、地域イノベーションについての理解と実践方略について講義を行う。
備考	担当教員は、現実の政策の企画・実施の場において実践を持ち、地域社会の課題と解決に向けた取組みについて豊かな知識と経験を有している。社会のために貢献したい、イノベーションの創造に関わりたいと考える学生は是非受講してください。